

音楽科学習指導案

5年2組 28名 指導者 福留健之

本授業では、以下の検証を行うものである。

- お互いの演奏を聴き合ったり、自分たちの演奏を録音して聴いたりするときに、評価意識をもつことによって、より豊かな表現ができるようになるか。

1 題材 ふしの重なり合いを感じ取ろう

教材「いつでもあの海は」 佐田和夫 作詞／長谷部匡俊 作曲（本時）

「やさしい風に」 佐田和夫 作詞／石桁冬樹作曲

2 目標

声や音が重なり合う響きを感じ取って、進んで響き合う表現の仕方を工夫したり、表情豊かに歌ったり演奏したりすることができるようにする。

声や音の重なりに関心をもって、響き合いを感じ取りながら、範唱や友達の演奏を聴くことができるようにする。

3 題材の評価規準

- 声や音が重なり合う美しい響きを求めて、進んで表現しようとしている。【音楽への関心・意欲・態度】
- 旋律が重なり合う響きを感じ取って、美しく響き合う表現の仕方を工夫している。
【音楽的な感受や表現の工夫】
- 旋律の重なり方や拍子の特徴などを生かして、表情豊かに歌ったり、楽器を演奏したりすることができる。
【表現の技能】
- 歌声や楽器の音が重なり合う響きを感じ取りながら、範唱や友達の演奏を聴くことができる。
【鑑賞の能力】

4 題材について

(1) 題材の価値

子どもたちはこれまでに、4学年の題材「音をきき合って合わせよう」で、ふしの重なり合いを楽しんだり、きれいな響きで合唱する楽しさを学習してきた。

そこで、本題材では、二部合唱や歌と楽器を合わせる曲を教材として、主に声や音が重なり合う響きを感じ取って、表情豊かに歌ったり演奏したりすることや、重なり合うそれぞれの旋律の特徴を感じ取って、演奏の仕方を工夫することができるようになることをねらいとした。

「いつでもあの海は」では、自分の思いを重ねた歌詞の内容に共感させながら、ふしの重なりの特徴に気付いたり、歌詞や旋律から膨らむイメージを生かしたりすることにより、歌い方を工夫させるようにする。特に、後半の合唱部分では、旋律の重なり方の違いを感じ取らせながら、互いの歌声を聴き合ったり、自分たちの合唱を録音して聴いたりするなど、評価意識をもたせながら学習を進めていきたい。




「やさしい風に」では、歌による旋律と楽器による旋律が重なり合って響く美しさを感じ取らせるようにする。また、8分の6拍子を感じながら演奏させたり、強弱記号をもとに演奏を工夫させたりすることで、豊かな表現を追究させるようにしたい。

これらの学習は、和声の響きを感じ取って表現したり、ふしの重なり合いを味わいながら表現したりする学習へと発展していく。このような学習により、子どもたちは活用する力を高めていくとともに、豊かな表現ができるようになり、生きて働く確かな学力が身に付いていくものである。

(2) 子どもの実態と指導

本学級には、既習曲を口ずさんだり、リコーダーやピアノを演奏したりするなど、音楽に対する興味・関心が高く、進んで表現する子どもがいる。一方で、興味・関心はあるものの、表現することに恥ずかしさや苦手意識を感じている子どももいる。そこで、本題材を通して行う「音タイム」では、4学年で学習した教材曲の部分合唱を歌詞や階名で歌ったり、リコーダーの基本奏法を練習したりする活動を取り入れ、本時の学習にも生かせるようにしたい。また、一単位時間の「磨き合う」過程では、自分の演奏や互いの演奏を音楽の諸要素を表す言葉を使って、評価意識をもちながら聴く活動を取り入れることにより、自分や友達の表現に興味・関心をもたせるとともに、どのように工夫すればさらによい表現になるのかを、子どもたちに自ら考えさせるようにしたい。なお、表現と鑑賞の活動の支えとなる知識・技能については、子どもたちが確実に身に付けられるように題材を通して指導する。さらに、本題材で学習したことが、関連する次の題材の学習でも活用されるように、題材の関連を意識させたい。

5 指導計画（総時数8時間）

主 な 学 習 活 動 【 評 価 規 準 】		時間
1	教材曲に思いや願いをもちながら題材の学習を見通すとともに、学習計画について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 題材との関連を考えながら教材の学習内容について話し合わせることで、学習の見通しや学習への意欲をもたせるようにする。 </div> <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">  </div> <p style="text-align: center;">【関：教材曲に興味・関心をもち、進んで学習計画について話し合おうとしている。】</p>	1
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">いつでもあの海は</div>		
2	曲想を感じ取り、主旋律の特徴を工夫して歌う。 【関：声の重なりや響きを感じ取り進んで聴いたり歌ったりしている。】	1
3	低声部の旋律の特徴をとらえ、重なり合う響きを感じ取りながら二部合唱をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 互いの演奏や自分たちの演奏を観点をもって聴く「ききタイム」の時間を設定して、自分たちの表現をより高めさせるようにする。 </div> <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">  </div> <p style="text-align: center;">【鑑：範唱や友だちの演奏、自分たちの演奏の旋律の重なりや響きを感じ取りながら聴くことができる。】</p>	1
4	旋律の特徴や重なり方の違いに気付き、表現を工夫しながら重なり合う響きを感じて歌う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 前時に録音した自分たちの演奏を聴かせ、課題について話し合わせてから、追究の学習活動を行わせる。 </div> <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">  </div> <p style="text-align: center;">【感：旋律の特徴や重なり方の違いに気付き、表現の仕方を工夫している。】 【技：重なり合う響きを感じ取って歌うことができる。】</p>	2 (本時) (1/2)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">やさしい風に</div>		
5	拍の流れに乗って曲想を感じ取ったり、強弱記号を生かして主旋律を歌ったりする。 【関：8分の6拍子の流れに乗って、進んで聴いたり表現したりしようとしている。】	1
6	旋律が重なり合う響きを感じ取って、歌ったり楽器で演奏したりする。 【技：重なり合う響きを感じ取って、歌ったり楽器を演奏したりすることができる。】	1
7	これまでの学習を生かし、工夫して表情豊かに表現する。 【感：速度や強弱記号に気を付けながら、歌詞の表す情景を思い浮かべ、表情豊かな表現の仕方を工夫している。】	1

6 本 時（4／8）

(1) 目 標

重なり合う旋律の響きを感じ取りながら、表情豊かに二部合唱をすることができるようにする。

(2) 評価規準

旋律の重なり方の違いを生かして、美しい響きの二部合唱をすることができる。 【表現の技能】

(3) 指導に当たって

子どもたちは前時までの学習で、曲全体の感じや旋律の特徴を感じ取って歌ったり、合唱部分の低声部を正しい音程やリズムで歌う練習をしてきている。そこで、「つかむ」過程では、前時の学習に録音した自分たちの演奏を聴かせ、どのようなことが課題であるかを話し合わせる。「見通す」過程では、課題を解決するための学習について考えさせるとともに、学習の進め方についても、これまでの関連がある題材の学習をもとに考えさせることで、学習に見通しをもたせるようにしたい。「追究する」過程では、学習が効果的に行えるように電子オルガンの自動伴奏機能を活用させたい。子どもたちには操作に習熟させておき、自主的な練習ができるようにしておきたい。「磨き合う」過程では、互いの演奏を聴き合ったり自分たちの演奏を録音して聴く「ききタイム」という時間を設定し、音楽を形づくっている要素を表す言葉を用いて自分たちの演奏について話し合わせることで評価意識をもたせるようにする。「振り返る」過程では、本時の学習のめあてをもとに自己評価をさせたり、友だち同士で賞賛させ合うことにより、確かな表現の伸びを実感させたい。また、学習の取組に対して賞賛の言葉をかけることにより、次時への学習意欲を高めるようにしたい。

単時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価	
7 (分)	つかむ	1 既習の合唱曲を歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・雲のようなやわらかい声で歌おう。 ・歌うときには姿勢や口形などにも気を付けるのだったね。 ・ふしが重なり合うと、とてもきれいだったね。 	「音タイム」で、本時の教材と関連がある既習教材を取り上げ、本時の学習への意欲付けを図る。その際、姿勢や口形、発声について指導する。
		2 学習課題と追究方法を確かめる。 ふしの重なり方のちがいに気を付けながら、気持ちをこめて二部合唱をしよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間よりもきれいな響きの合唱ができるといいね。 	前時の録音を聴かせて課題について考えさせ、解決のためのめあてを話し合わせる。
20	見通す	3 学習の進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちをこめて歌うには、どんな学習をすればいいかな？ ・「主なふし」と「ひびきをつくるふし」はどのようなふしだったかな。 ・「主なふし」と「ひびきをつくるふし」に分かれてしっかり練習しよう。 	気持ちをこめて歌うには、歌詞を読んで味わったり、範唱を注意深く聴くことが大切です。また、なめらかな歌い方をするためには、息つぎの仕方や息の使い方も大切であることを確認する。
		4 2つのグループに分かれて歌い方を工夫しながら練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の山はどれぐらいの声の大きさで歌ったらいいかな。 ・だんだん大きくするところはどこだろう。 ・歌詞にある言葉を想像しながら歌うと、歌い方が変わってくるよ。 ・難しいところは何回も練習しよう。 ・自分が歌うふしになれてきたら、いっしょに合唱しよう。 ・CDの範唱は、歌い方がとてもなめらかな感じがするのはどうしてだろう。 ・歌うときには、息の使い方が大切だね。 	電子オルガンを使わせて、効果的に練習ができるようにする
13	磨き合う	5 グループで練習したことを発表し合い、気付いたことについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の山にむけて強弱を考えて歌うことができているね。 ・歌詞が表していることが、歌い方によく表れているね。 ・「ききタイム」ではお互いの歌声や、自分たちの演奏の録音を聴いてみよう。 ・息の使い方に気を付けていてとてもなめらかに歌えているよ。 	※ 旋律の重なり方の違いを生かして、美しい響きの二部合唱をすることができる。 (歌う様子) <ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちをこめて歌うことができている子どもには、歌い方のよいところを取り上げて具体的に賞賛するとともに、思うように表現できていない子どもと一緒に歌ってあげるよう助言する。 ○ 活動が停滞している子どもには、一緒に歌詞を読んだり、実際に息を吸って一緒に歌ったりする。また、オルガンで音程を確かめるようにする。
		6 今日学習の成果を録音する。 7 本時の学習を振り返るとともに、今後の学習について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・強弱や息つぎに気を付けると、とてもなめらかで気持ちをこめた感じが出るね。 ・低声部と主なふしが音の高さに気を付けて歌うと、とても響きがきれいだね。 	「ききタイム」では、自分や他の人の演奏を、評価意識をもって聴くことにより、さらにより表現を追究できるようにする。また、それをもとにさらに練習して、全員による合唱を録音する。
5	振り返る		本時のめあてをもとに学習を振り返らせることで、学習の成果を認め合えるようにする。また、学習計画をもとに、次時も合唱練習をすることを知らせ、本時の録音をもとに課題について話し合い、めあてを考えて学習を進めていくことを知らせる。